

都市公園における、公園利用者の外来生物問題に対する意識

林真帆・佐藤方博・片岡友美（特定非営利活動法人 生態工房）

外来生物の防除においては、駆除や繁殖抑制のほかに、新たに侵入・拡散させないための予防も重要である。外来魚駆除の現場は、市民に親しまれている公園緑地であることも多いため、公園利用者に対する普及啓発は、新たな侵入と拡散を予防する重要な役割を持つと考えられる。効果的な普及啓発活動を行うためには、対象者の知識や外来生物に対する意識などを把握し、利用者の特性に対応したプログラムを計画することが望まれる。本報告では、外来生物問題に対する市民の意識を把握するため、都立井の頭恩賜公園（三鷹市）で開催された外来魚駆除の啓発イベントにおいて、アンケート法による公園利用者の意識調査を行い、その特性を明らかにした。

属性：回答者の44%は毎日～月数回の頻度で来園、28%は来園頻度が年数回、16%は初めての来園であった。来園者は、近隣及び周辺区市に在住し、公園を日常的に利用している人と、ときどきまたは初めて利用する人が、それぞれ半数程度であった。

解説活動：回答者の60%は当日来園してイベントの開催を知り参加した。申し込み不要・非定員制のプログラムは、当日の参加者を獲得しやすい。回答者の23%は園内ポスターによる告知や、それを見たと思われる知人からの口コミにより参加した。回答者の99%は、今回実施した解説プログラムが外来生物問題の解決に役立つと考えており、プログラムの主旨に肯定的であった。

外来生物問題：回答者の66%は外来生物問題を知っていたが、世論調査（内閣府2006）での認知度（77%）と比較すると低かった。井の頭池の外来生物問題の認知度は47%とさらに低く、37%は初めて知ったと回答した。外来生物問題の認知度は、回答者の来園頻度と関連していた。

外来生物対策：外来生物対策に対し、回答者の18%は駆除作業に参加する意思を示した。また外来生物を遺棄しない(33%)、問題を知人に伝える(27%)、活動団体に寄付をする(19%)を合わせると、「何らかの対策に協力する」(97%)との回答が、「何もしない」(0.6%)を大きく上回った。さらに駆除作業に参加する場合、回答者の22%は毎週から毎月参加してもよいと答えた。これらの活動が比較的多くの一般市民の協力を得られる可能性が示唆された。

公園利用者のニーズ：公園として取り組んでほしい課題として、77%が自然環境保全に関する項目を挙げた。自然環境保全に関する項目で、「外来生物対策」は3位であった。公園利用者の多くは、園内の施設整備よりも環境保全への関心が高かった。